

北海道新幹線フォーラム/パネルディスカッション用PP



**Hokkaido
Airports**

北海道エアポート(株) 平池

1. パートナーシップ協定と協定に基づく協議会

北海道内7空港の一体的運営に関するパートナーシップ協定

目的： 北海道内7空港について、各空港のマーケティング力の底上げ、航空ネットワークの充実等を図り、地域と連携した広域観光の振興を含め地域経済の活性化につなげる

構成： 当社、北海道、空港所在自治体（千歳市、苫小牧市、稚内市、釧路市、白糠町、函館市、旭川市、東神楽町、帯広市、大空町）

締結： 2020年1月18日

7空港一体協議会 (北海道内7空港の一体的運営に関する協議会)

目的：

7空港を運営するにあたり北海道全体の視点で、行政・地元経済界との相互理解の醸成、緊密な連携を図ること

協議事項：

広域観光の振興、7空港の利用促進、道内航空ネットワークの充実等

構成員：

北海道、空港所在自治体、国土交通省航空局、北海道運輸局、北海道経済4団体

空港別協議会

目的：

各空港を運営するにあたり各地域の視点で、行政・地元経済界との相互理解の醸成、緊密な連携を図ること

協議事項※：

地域観光の振興、各空港の利用促進、地域との共生等

構成員※：

空港所在自治体、空港管理者、地元経済界

※ 各空港で設ける規約に基づき異なる

2023年1月17日(火)
苫小牧港開発株式会社
北海道エアポート株式会社

大雪等による新千歳空港滞留者緩和に向けた 新サービスの開始について

苫小牧港開発株式会社（本社：苫小牧市、代表取締役社長：関根久修）と北海道エアポート株式会社（本社：千歳市、代表取締役社長：蒲生猛、略称：HAP）は、2023年1月17日より、大雪等により新千歳空港で多数の出発便の欠航が見込まれる場合に、苫小牧港に就航する本州向けフェリーとの連携強化を図り、空港滞留者緩和に向けた新たなサービスを開始致しました。

北海道運輸局（本局：札幌市、局長：岩城宏幸）とHAPは、昨年「大雪等による新千歳空港滞留者解消連携会議」を開催し、関係機関のご協力を得て、今冬より、札幌大谷地バスターミナルへの連絡バス緊急ピストン輸送や、新たな情報共有体制構築等の対策に取り組んでおりますが、今般、空港と港湾が近接地に立地するダブルボートの利点を活かし、本州方面への移動をご希望されるお客さま向けに、新たに以下のサービスをご提供するものです。

概要

①新千歳空港内における苫小牧港就航路線の情報提供

- 苫小牧西港：八戸、仙台・名古屋、大洗
 - 苫小牧東港：秋田・新潟・敦賀
- ※フェリー各社では、当日予約にも柔軟な対応を行う予定をしております。

②苫小牧西港行き専用連絡バスの臨時運行

- 運行主体：苫小牧港開発株式会社
 - 料金：無料
 - 運行時間：新千歳空港 15時発・17時発の2便（2番のりば）
 - 協力会社：道南バス株式会社
- ※本州方面向けの新千歳空港出発便に多くの欠航が予定され、苫小牧西港を出国するフェリーへの振替利用が見込まれる場合に運行致します。
- ※連絡バスの乗車場所につきましては、当日の天候により変更となる可能性がございます。
- <https://www.new-chitose-airport.jp/ja/access/bus/>（「バス乗降場所」ご参照）

<本件に関するお問い合わせ>

苫小牧港開発株式会社 ターミナル事業部 企画営業課（直通：0144-33-1186）
北海道エアポート株式会社 総務・人事部 広報課（代表：0123-46-2990）



世界の観光客を魅了し 北海道全域へ送客する マルチ・ツーリズムゲートウェイ

国際ゲートウェイ機能を7つに段階的に拡大することで、旅客数4,584万人を目指します

国際ゲートウェイ機能を
7空港に分散・拡大



7空港旅客数
2,846万人 > **4,584万人**
6空港(新千歳以外)旅客数
537万人 > **1,048万人**

7空港路線数
60路線 > **142路線**
6空港(新千歳以外)路線数
19路線 > **62路線**

北海道全域での
周遊観光流動
の創出

訪日外国人のうちの来道者割合
10% > **15%**
7空港国際線旅客数のうち6空港シェア
7% > **17%**

※各目標値は「現状 > 30年後」として記載

戦略的事業方針

7空港の明確な役割分担
による
航空ネットワークの分散・拡大

デジタルマーケティング
による
段階的な観光流動づくり

北海道の魅力発信と
地域活性化への貢献

安全・安心を最優先
とする
長期安定の空港運営

「マルチ・ツーリズムゲートウェイ」の形成・拡大ステップ

- ・ 旺盛な東アジアからの観光需要をメインターゲットとして、段階的に観光流動を道内各地に拡大
- ・ 運営開始当初10年間で「マルチ・ツーリズムゲートウェイ」を概成

<当初10年間の観光流動の拡大ステップ(イメージ)>



各空港の戦略的位置付け

各空港の特性や課題、潜在的旅客需要を踏まえて、7空港を①グローバルゲートウェイ、②広域ゲートウェイ、③地域ゲートウェイとしてそれぞれ位置付け

| 空港名 | 位置付け | 将来像 |
|-----|-------------|--|
| 新千歳 | グローバルゲートウェイ | 北海道全体の航空ネットワークの拡大と、観光市場の成長を牽引するリーディングゲートウェイ |
| 稚内 | 地域ゲートウェイ | 利尻・礼文等の地域観光資源へのアクセスを担い、地域の経済・生活を支えるゲートウェイ |
| 釧路 | 地域ゲートウェイ | 釧路・阿寒のアドベンチャーツーリズム・ひがし北海道広域周遊のゲートウェイ |
| 函館 | 広域ゲートウェイ | 新幹線とのアクセス強化による道南・東北No.1の広域周遊観光ゲートウェイ |
| 旭川 | 広域ゲートウェイ | 旭川・大雪山・富良野等の世界屈指の山岳・スノーリゾートや道内各地への広域周遊観光ゲートウェイ |
| 帯広 | 地域ゲートウェイ | フードパレーとかちやひがし北海道広域周遊観光のゲートウェイ |
| 女満別 | 地域ゲートウェイ | オホーツクの比類なき大自然やひがし北海道広域周遊観光のゲートウェイ |

7空港の明確な役割分担による航空ネットワークの分散・拡大

ターゲットの特性に応じた戦略的な路線開発

<基本戦略>

- 7空港の役割分担に応じたターゲット路線の設定
- LCC誘致による新規需要の拡大
- 道内オープンジョーによる広域観光促進

<エアライン誘致施策>

- 航空営業専門部署の設置
- 地域一体での営業体制の構築
- データを活用したマーケティング戦略
- 地域と連携した航空貨物の利用促進

<着陸料等の料金施策>

- 航空ネットワークの分散・拡大を促進する多様なインセンティブ
- 需要変動リスクをエアラインとSPCがシェアする旅客数連動の料金体系
- 新規就航前後のエアラインのマーケティング費用をサポート

<空港毎のターゲット路線>

| 空港 | 国際線 | 国内線 |
|------------------|---------------------|---------------------|
| 新千歳 | アジア圏ローカル 欧米豪等長距離 | 三大都市圏拠点空港 + 地方都市 |
| 函館・旭川 | 東アジア・ 東南アジア首都 | 三大都市圏拠点空港 |
| 釧路・帯広・ 女満別・稚内 | 東アジア首都 | 三大都市圏拠点空港 |

<道内オープンジョーのイメージ>



<エアライン誘致体制>



道内航空ネットワークの充実

- 道内LCC路線誘致等による道民の生活路線維持や低運賃志向の新たな旅客需要創出
- 訪日外国人向け割引運賃等を活用した観光利用促進
- コンピューター・リージョナル航空の誘致による移動手段の多様化

エアラインの就航機会を逃さない受入環境整備

- 7空港全てにおける国際線就航を実現する受入環境整備
- 拡大するビジネスジェット需要への対応
- 除雪能力強化、グランドハンドリング等の受入体制の強化

<グランドハンドリング体制の強化>



デジタルマーケティングによる段階的な観光流動づくり

地域一体でのデジタルマーケティングの展開

- Web・アプリ等を通じたデータ分析による旅行動向の把握
- 分析結果を活用した地域一体での周遊ルートづくりと二次アクセス拡充
- 道内全てのDMOを重要パートナーとした観光商品の充実
- きた・ひがし北海道への観光流動を段階的に創出し、道内全域の観光需要を喚起
- 構成員等の国内外のリソース（商業施設、航空・鉄道、メディア等）を通じたプロモーション

旅マエから旅アトまで一貫した旅の利便性向上

- オンラインと対面の両方で旅マエ～旅アトまでサポートするコンシェルジュサービスの提供
- 7空港全てで、従来の総合案内に加え、観光商品や交通手配を含む様々な旅行サポートを行う観光コンシェルジュを設置
- 多様な交通モード間の連携促進による二次アクセスの改善

<デジタルマーケティングの展開イメージ>



- 分析結果に基づき、自治体/DMO等と周遊観光ルートの商品開発
- ターゲットに合わせたメディアのプロモーション、情報発信